

令和8年1月9日

生徒・保護者の皆様へ

志村第五中学校

「志五中教師がめざす授業スタイル 2026」宣言

年頭に当たり、本校では改めて授業づくりの在り方を見つめ直し、生徒一人ひとりの学びをより充実させる教育活動を進めてまいります。私たちは、生徒の皆さんのが「自ら考え、仲間と対話し、深く学ぶ」こと（「主体的・対話的で深い学び」）を授業の中心に据え、学びの質を高めていくことをめざします。

そのために、以下の4つのスタイルを全教員で共有し、実践してまいります。

1 安心して学べる、集中できる環境づくり

- ・教員は万全の準備で生徒を迎える、誰もがリラックスして「さあ、学ぼう」と思える、安心できる雰囲気で授業を始めます。

2 一方通行でない「対話」で、学ぶ意欲を引き出す

- ・授業は、一方的な説明（インプット）から始まるわけではありません。教員からの問い合わせや生徒同士の対話を通して、「なぜこれを学ぶのか」を生徒自身が考え、学ぶ意欲をもって課題に取り組めるよう導きます。

3 生徒が「主役」。主体的な活動を最大化する

- ・授業の主役は生徒です。教員の説明は簡潔にし、生徒が自ら「考え、話し、調べ、表現する」活動（アウトプット）の時間を最大限に確保します。
- ・生徒が自分のペースで学んだり、Chromebookで調べたり、学習方法を選んだりできる機会を大切にします。
- ・発表や提出物では「どのような点が評価されるか」を事前に示し、生徒が安心して課題に取り組めるよう導きます。
- ・教員は一人ひとりの状況を丁寧に見守り、生徒が「思考する時間」を尊重します。つまずきには個別に声をかけ、生徒が自力で解決できるよう支援します。

4 毎時間の「振り返り」で、学びを確実にする

- ・授業の最後には、必ず「わかったこと・できるようになったこと」や「次に知りたいこと」を生徒自身が整理する時間を設けます。この「学びの記録」をデジタルで蓄積し、生徒自身が成長を実感できるようにします。教員はそれを次の指導改善や、一人ひとりへの丁寧な評価に活かしていきます。